

## 平成 30 年度 研究の進捗状況

平成 31 年 3 月 31 日現在

氏名：梶田 和宏（平成 28 年度入学）

### ●学会発表

1. 梶田和宏, 川村卓, 島田一志, 金堀哲也, 八木快: わが国のプロ野球捕手における二塁送球動作の定量的かつ定性的特徴分析. 日本コーチング学会第 30 回大会, 2019 年 3 月 13 日-14 日, 東海大学. (優秀発表賞: ポスター発表)
2. 波戸謙太, 八木快, 梶田和宏, 金堀哲也, 川村卓: 投手のピッチング動作における共通性-プロ野球 1 軍投手および 2・3 軍投手との比較検討-. 日本野球科学研究会第 6 回大会, 2018 年 12 月 1 日-2 日, 筑波大学.
3. Kazuhiro Kajita, Atsushi Kiuchi, Kyungjin Park, Po-Hsiu Lin, Etsushi Hasegawa : Comparative Studies on the Current Status of Physical Education Courses as Liberal Arts in Higher Education at Colleges and Universities in Japan, Korea and Taiwan. The 2018 International Conference for the 7th East Asian Alliance of Sport Pedagogy, 2018 年 6 月 30 日-7 月 1 日, 国立台湾体育大学.

### ●学術論文

1. 梶田和宏, 川村卓, 島田一志, 金堀哲也, 八木快: わが国のプロ野球捕手における二塁送球動作の特徴分析. コーチング学研究 32 (2) , 171-187, 2019 年 3 月.
2. Kazuhiro Kajita, Atsushi Kiuchi, Kyungjin Park, Po-Hsiu LIN, Etsushi Hasegawa, Akira Nakagawa : A comprehensive and comparative survey study reveals the current status of physical education in liberal arts higher education courses at colleges and universities in Japan, Korea and Taiwan. The Bulletin of Faculty of Health and Sport Sciences, The Bulletin of Faculty of Health and Sport Sciences 42, 57-61, 2019 年 3 月.
3. 梶田和宏, 木内敦詞, 長谷川悦示, 朴京眞, 川戸湧也, 中川昭: わが国の大学における教養体育の開講状況に関する悉皆調査研究. 体育学研究 63 (2) , 885-903, 2018 年 12 月.

以上

氏名：梶 ちか子（平成28年度入学）

●学会発表

1. 佐藤豊，友添秀則，本多壮太郎，大越正大，木原慎介，三田部勇，清田美紀，梶ちか子  
「体育の知識を明確化するためのワークショップの検討」  
日本体育科教育学会，2018年6月23・24日，沖縄大学.
2. 佐藤豊，友添秀則，高橋修一，吉野聡，本多壮太郎，清水将，日野克博，梶ちか子  
「教師養成，現職教員の協働によるアクション・ラーニング研修プログラムの開発②  
－2016年度と2017年度教師ネットワーク研究会参加者の比較から－」  
日本体育学会第69回大会，2018年8月24・25・26日，徳島大学.
3. 梶ちか子，小松 恵理子，青山 優子，桧垣 淳子，鄭 英美，矢渡 理奈  
「教員養成課程のダンス授業における技能評価力言う生に向けての取組（2）－ダンスの技能評価観点の可視化教材の効果的な活用方法について－」  
九州体育・スポーツ学会第67回大会，2018年9月15・16日，熊本学園大学.
4. 梶ちか子.  
「『即興表現』から『作品創作』をつなぐ授業の提案  
－『技能評価観点構造図』及び曲の『歌詞』を手がかりにした教材－」  
第8回九州体育・保健体育ネットワーク研究会，2019年3月1・2日，アクション福岡.

●学術論文

1. 梶ちか子，松元 隆秀，金高 宏文.  
「表現系ダンス・リズム系ダンスの『技能評価観点構造図』の提案」  
九州体育・スポーツ学研究（印刷中），2019.
2. 梶ちか子  
「大学体育授業における実践研究の進め方の提案  
－筆者が博士論文で取り組んだ，大学体育の授業研究における実践研究から－」  
スポーツパフォーマンス研究，editorial：28-35，2019年3月.
3. 山本 正嘉，笹子 悠歩，梶ちか子  
「登山中の身のこなしをよくする『登山体操』の紹介」  
登山研修，34：20-23，2019年3月.

以上

氏名：下川 美佳（平成 28 年度入学）

●学会発表

1. 椿武，水谷未来，下川美佳，竹中健太郎，前坂茂樹，前田明：竹刀の長さが剣道における剣先速度と打突時間に及ぼす影響，日本武道学会，平成 30 年 9 月，東京学芸大学.

●学術論文

1. 下川美佳，金高宏文，竹中健太郎，赤崎房生，前田明：剣道における打撃音と踏み込み音およびそれらの複合音の相違，武道学研究，第 51 巻 1 号 35 頁～43 頁，平成 30 年 8 月
2. 下川美佳，金高宏文，竹中健太郎，幾留沙智，前田明：剣道における踏み込み音の違いが打突の冴えや強度の評価に及ぼす影響，スポーツパフォーマンス研究，10 巻 1822 号 311 頁～324 頁，平成 30 年 11 月
3. 竹中健太郎，下川美佳，前坂茂樹：剣道の足構えについての検討-左足踵離床と着床時における下肢動作の反応時間に着目して-，スポーツパフォーマンス研究，11 巻 1836 号 142 頁～151 頁，平成 31 年 3 月
4. Takenaka Kentaro, Shimokawa Mika: An Exploration of How to Correct the Bad Habit Among Kendo Practitiners of 'Chin-Raising' when Strikng , KENDO world, 8.4 巻 77 頁～81 頁，平成 31 年 3 月

以上

氏名：川戸 湧也（平成 28 年度入学）

●学会発表

1. 川戸湧也，川端健司，鈴木利一，稲田達哉.  
「グランドスラム・パリ 2017 大会男子における固技の競技分析研究」  
日本武道学会第五十一回大会，2018 年 9 月 23 日，東京学芸大学.

●学術論文

1. 川戸湧也，川端健司，鈴木利一，稲田達哉.  
「グランドスラム・パリ 2017 大会男子における固技の競技分析研究」  
柔道科学研究，21，p. p. 11-15，2018 年 6 月.
2. 川戸湧也，南條充寿，南條和恵.  
「少年柔道教室に対する期待と課題：東北地区における報告」  
仙台大学紀要，50(1)，p. p. 11-16，2018 年 9 月.
3. 川戸湧也，長谷川悦示.  
「大学体育における柔道授業の授業設計の実態」  
大学体育学，16，p. p. 27-42，2019 年 3 月.

以上

氏名：奈良 隆章（平成 28 年度入学）

●学会発表

1. 林卓史，島田一志，奈良隆章，布施努，佐藤毅彦：投手が腕を振ることの意味-トラッキングシステムを活かした投手コーチングの実践-。日本野球科学研究会第 6 回大会，茨城，2018 年 12 月，筑波大学。
2. 宮内貴圭，川村卓，奈良隆章：新旧軟式ボールの比較研究-弾み方に着目して-。日本野球科学研究会第 6 回大会，茨城，2018 年 12 月，筑波大学。

●学術論文

1. Choi Y, Makita M, Nakamura Y, Yamamoto K, Nara T, Kawamura T, Fukuda H, Katano H, Miyakawa S, Maeda S: Effect of novel recovery garments utilising nanodiamond- and nanoplatinum-coated materials (DPV576-C) on physical and psychological stress in baseball players: A randomised, placebo-controlled trial. *European Journal of Sport Science*, 13: 1-7, 2018-11.

以上

氏名：金谷 麻理子（平成 29 年度入学）

●学会発表

1. 金谷麻理子：大学院生を対象にした体育授業の実践、大学教育学会第 40 回大会（つくば）、2018 年 6 月 10 日、筑波大学.
2. Mariko Kanaya：Review of the subject content in university physical education: From the viewpoint of the phenomenological-morphological movement theory in sport, International Association for the Philosophy of Sport Conference (Oslo, Norway) , 2018 年 9 月 6 日, Norwegian School of Sport Sciences.

●学術論文

1. 金谷麻理子、高木英樹：大学体育における意識的運動学習の教育的価値に関する一考察. 大学体育スポーツ学研究, 16 : 3-12 頁, 2019 年 3 月.

以上

氏名：山内 宏志（平成 29 年度入学）

●学会発表

1. Shimizu, Y., Miyazaki, M., Annear, M. Takanashi, M., and Yamauchi, H.  
The Effects of Physical Education Courses on University Students' Exercise Efficacy and School Adaptation 23<sup>rd</sup> Annual Congress, European College of Sport Science 6<sup>th</sup> July 2019, University College Dublin & Ulster University.
2. Annear M., Shimizu Y., Kidokoro T., Takanashi M., Sato K., and Yamauchi H.  
Leveraging Tokyo 2020: The Olympics and physical activity among middle-aged and older Japanese 23<sup>rd</sup> Annual Congress, European College of Sport Science 6<sup>th</sup> July 2019, University College Dublin & Ulster University.

以上

氏名：山中 裕太（平成 29 年度入学）

●学会発表

なし

●学術論文

1. 山中裕太，本間三和子，高子英樹：大学体育水球授業モデルの開発 ―水球を教材とした大学体育授業の実践に関する効果と課題の検討を通して―. 大学体育研究 41, p37-49, 2019 年 3 月.

以上



氏名：田中 耕作（平成 29 年度入学）

●学会発表

1. 田中耕作，高井洋平，松村勲，山本正嘉：800m走パフォーマンスと筋サイズ、および有酸素性・無酸素性作業能力との関係，第 31 回日本トレーニング科学会大会，2018 年 10 月 27 日～10 月 28 日，東海学園大学三好キャンパス.
2. 吉岡利貢，北野紘一，高橋秀典，田中耕作：長距離走パフォーマンス向上のための高重量レジスタンストレーニングの導入方法～体力・形態および選手の主観を手がかりに～，第 31 回ランニング学会大会，2019 年 3 月 15 日～3 月 16 日，NSG 学生総合プラザ STEP.

●学術論文

1. 田中耕作，フダラキス・イオアニス・ヨルギオス，森寿仁，山本正嘉 思春期の長距離走選手における 3000m 走能力と 4 種類の跳躍能力との関係，ランニング学研究，31 巻 1 号.

以上

氏名：藤井 雅文（平成 29 年度入学）

●学会発表

1. 藤井雅文, 鈴木智晴, 佐藤伸之, 村上光平, 前田明. Rapsodo Baseball による打撃パフォーマンステストの有効性. 第 4 回日本スポーツパフォーマンス学会大会, 2018 年 7 月 25 日, 東京ビックサイト(東京).
2. 鈴木智晴, 佐藤伸之, 村上光平, 藤井雅文, 前田明. Rapsodo Baseball を用いた打撃パフォーマンステストの開発～大学野球選手を対象として～. 第 4 回日本スポーツパフォーマンス学会大会, 2018 年 7 月 25 日, 東京ビックサイト(東京).
3. 前田明, 鈴木智晴, 村上光平, 藤井雅文. シャッターゴーグルを用いた直球を見るトレーニングがバントパフォーマンスに及ぼす影響. 第 4 回日本スポーツパフォーマンス学会大会, 2018 年 7 月 25 日, 東京ビックサイト(東京).
4. 水谷未来, 杉浦 綾, 鈴木智晴, 藤井雅文, 亀田麻依, 前田 明. 女子プロ野球投手における球種ごとの特徴. 第 4 回日本スポーツパフォーマンス学会大会, 2018 年 7 月 25 日, 東京ビックサイト(東京).
5. 佐藤伸之, 鈴木智晴, 村上光平, 藤井雅文, 前田明. Rapsodo Baseball を用いた打撃パフォーマンスに関するフィードバックシート作成の試み. 第 4 回日本スポーツパフォーマンス学会大会, 2018 年 7 月 25 日, 東京ビックサイト(東京).
6. 杉浦綾, 鈴木智晴, 佐藤伸之, 村上光平, 藤井雅文, 前田明. WBSC 女子野球ワールドカップ日本代表に選出された選手の成長過程. 第 4 回日本スポーツパフォーマンス学会大会, 2018 年 7 月 25 日, 東京ビックサイト(東京).
7. 村上光平, 鴻江寿治, 佐藤大輔, 緒方剛, 筒井奈津子, 鈴木智晴, 藤井雅文, 亀田麻依, 前田明. ヒトは生まれつき猫背である～“コウノエ理論”に基づく姿勢の定量化～. 第 4 回日本スポーツパフォーマンス学会大会, 2018 年 7 月 25 日, 東京ビックサイト(東京).
8. 村上光平, 渡邊修希, 鈴木智晴, 藤井雅文, 前田明. 一般男子高校生の投動作に関する研究～投距離を決定する動作の出現時期（タイミング）に着目して～. 第 69 回日本体育学会, 2018 年 8 月 24-26 日, 徳島大学(徳島).
9. 鈴木智晴, 藤井雅文, 村上光平, 佐藤伸之, 中本浩揮, 前田明. 試合映像から見る野球捕手の二塁送球時間と盗塁阻止一捕手ごとの特徴を踏まえて一. P. 72. 第 6 回日本野球科学研究会, 2018 年 12 月 1-2 日, 筑波大学(茨城).
10. 佐藤伸之, 鈴木智晴, 村上光平, 藤井雅文, 前田明. トラッキングシステムを用いた打球の類型化とその特徴～世代別に見た打球の違い～. P. 76. 第 6 回日本野球科学研究会, 2018 年 12 月 1-2 日, 筑波大学(茨城).
11. Kohei Murakami, Naoto Ichimaru, Kim Zeone, Cheng-Che Weng, Chiharu Suzuki, Masafumi Fujii, Akira Maeda. A Comparative Study on the Physique and Physical Fitness of Children in East Asia. 23rd annual Congress of the EUROPEAN COLLEGE OF SPORT SCIENCE (ECSS), Book of Abstracts P.449, 2018 年 7 月 4-7 日, ダブリン・コンベンション・センター(アイルランド).
12. Chiharu Suzuki, Masafumi Fujii, Kohei Murakami, Hiroki Nakamoto, Akira Maeda. Operating factors that determine the accuracy of throwing to second base in the

baseball catcher. 23rd annual Congress of the EUROPEAN COLLEGE OF SPORT SCIENCE (ECSS) , Book of Abstracts P.449, 2018年7月4-7日, ダブリン・コンペション・センター(アイルランド).

●学術論文

1. 鈴木智晴 , 藤井雅文 , 村上光平 , 中本浩揮 , 前田明. 試合映像から見る野球捕手の二塁送球時間と盗塁阻止実現確率の関係:ロジスティック回帰分析を用いた検討. 体育学研究, 2019年2月.
2. 蔭山雅洋, 中島 一, 中本浩揮, 藤井雅文, 前田 明. 発達段階の異なる野球選手およびプロ野球選手のバットスイングの特徴. 日本野球科学研究 2:57-76, 2019年3月.

以上

氏名：久保田 もか (平成 30 年度入学)

●学会発表

1. 久保田もか, 高橋浩二, 河合史菜, 山内正毅, 峰松和夫「学びの地図～運動編～」と「学びの羅針盤」との関連づけ. 教育実践研究フォーラム in 長崎大学, 平成 30 年 11 月 18 日.

●学術論文

1. 久保田もか, 高橋浩二, 御手洗喜朗, 峰松和夫, 森小夜子, 橋田晶拓, 宇野将武：「ボール運動系」の学習から高まる運動能力の汎用性. 長崎大学教育学部教育実践研究紀要第 18 号, pp11-17, 2019 年 03 月.
2. 高橋浩二, 久保田もか, 元嶋菜美香, 田井健太郎, 宮良俊行：保健体育科における授業観察の「転換」の必要性 - 附属中学校における教育実習の授業分析から - . 長崎大学教育学部教育実践研究紀要第 18 号, pp39-44, 2019 年 03 月.
3. 峰松和夫, 久保田もか：生徒の体力と技能の向上を目指したラグビーの授業. 長崎大学教育学部教育実践研究紀要第 18 号, pp121-127, 2019 年 3 月.

以上

氏名：佐藤 冬果（平成 30 年度入学）

●学会発表

1. 佐藤冬果, 坂本昭裕「Self-authorship の獲得を促す授業開発に向けた構成概念の検討」（口頭発表）. 『第 25 回大学教育研究フォーラム』, 2019 年 3 月 23～24 日, 京都大学吉田キャンパス.
2. 佐藤冬果, 坂本昭裕「教養教育としての大学体育による Self-authorship 育成についての理論的検討」（口頭発表）, 『日本スポーツ教育学会 第 38 回学会大会』, 2018 年 10 月 13～14 日, 広島大学東広島キャンパス.
3. 佐藤冬果, 坂本昭裕「我が国における教養教育としての野外教育プログラムの可能性—Self-authorship の育成を促す大学体育授業の実践に向けて—」（口頭発表）. 『日本野外教育学会 21 回大会』, 2018 年 6 月 22～24 日, 信州大学 長野（教育）キャンパス.
4. 谷中理矩, 佐藤冬果, 渡邊仁, 「参加児童生徒のもつ組織キャンプ経験の自伝的記憶—自伝的推論に着目して—」（ポスター発表）. 『第 22 回 日本キャンプミーティング』, 2018 年 6 月 9 日, 国立オリンピック記念青少年総合センター.

●学術論文

1. 佐藤冬果, 坂本昭裕：教養科目としての大学体育による Self-authorship 育成に向けての理論的検討（総説）, 大学体育研究, 41 号, pp. 1-14, 2019 年 3 月.
2. 坂谷充, 渡邊仁, 福富雄, 佐藤冬果：組織キャンプのプログラムと教育効果—南会津チャレンジキャンプの実践を事例として—（実践報告）. キャンプ研究, 22 号, pp. 19-25, 2019 年 3 月.
3. 徳田真彦, 佐藤冬果：野外教育分野を学ぶ学生ネットワークが果たす新たな「学びの場」としての機能—「大学間交流スキーキャンプ」の活動報告—（実践報告）, キャンプ研究, 22 号, pp. 39-44, 2019 年 3 月.
4. 佐藤冬果, 井村仁：子ども時代の組織キャンプ経験に関する自伝的記憶—ライフストーリーインタビューからの質的検討—（原著）, 野外教育研究, 22 巻 1 号, pp. 1-18, 2018 年 11 月.
5. 佐藤冬果, 井村仁：子ども時代の組織キャンプ経験に関する自伝的記憶—記憶特性質問紙を用いた検討—（原著）, 野外教育研究, 21 巻 2 号, pp. 15-26, 2018 年 3 月.

以上

氏名：藤野 和樹（平成 30 年度入学）

●学会発表

1. 藤野和樹，木内敦詞：大学体育バドミントン授業における受講者の競技経験と技能レベルの関係性，第 7 回大学体育スポーツ研究フォーラム，2019 年 2 月 20 日，目白大学新宿キャンパス。
2. 藤野和樹：大学体育バドミントン授業受講者におけるサービスストロークに関する研究，第 2 回バドミントン学会大会，2019 年 3 月 17 日，首都大学東京秋葉原サテライトキャンパス。
3. 藤野和樹：大学体育バドミントン授業における学習者に関する知識－競技経験と自己評価技能の関係－，第 2 回バドミントン学会大会，2019 年 3 月 17 日，首都大学東京秋葉原サテライトキャンパス。

●学術論文

1. 藤野和樹，八田直紀，升祐二郎，林直樹：大学バドミントン授業におけるサービスストロークに関する研究－フォアハンドによるロングサービスに影響する要因の探索的検討－，コーチング学研究，2019 年 3 月。

以上

氏名：笹子 悠歩（平成30年度入学）

●学会発表

1. 笹子悠歩, 山本正嘉.  
「低山での登山の励行が中高年者の心身の健康と体力に及ぼす影響；心身の変化に関する内省報告に着目して」  
第22回ウォーキング学会大会, 2018, 10, 13, 下関, 海峡メッセ下関.
2. 笹子悠歩, 藤田英二, 山本正嘉.  
「週一回の定期的な登山を行う中高年者の健康および体力に関する調査研究」  
第73回日本体力医学会大会, 2018, 9, 7-9, 福井, アオッサ・ハピリン.
3. 笹子悠歩, 山本正嘉.  
「週一回の定期的な登山を行う中高年者の健康および体力に関する調査研究」  
第38回日本登山医学会学術集会, 2018, 6, 2-3, 東京, 日本女子体育大学.
4. 森寿仁, 笹子悠歩, 山本正嘉.  
「富士山山頂における夜間睡眠時の動脈血酸素飽和度（第2報）～山頂における高所順応過程に着目して～」  
第38回日本登山医学会学術集会, 2018, 6, 2-3, 東京, 日本女子体育大学.
5. 笹子悠歩, 宮崎喜美乃, 安藤真由子, 山本正嘉.  
「登山中に起こる脚筋系トラブルと膝伸展筋力との関係；年齢および登山頻度との関連にも着目して」  
第31回日本トレーニング科学学会大会, 2018, 10, 27-28, 愛知, 東海学園大学三好キャンパス.

●学術論文

1. 笹子悠歩, 山本正嘉.  
「低山での登山の励行が中高年者の心身の健康に及ぼす影響」  
ウォーキング研究, 22 : 41-47, 2018年1月.
2. 笹子悠歩, 山本正嘉.  
「週一回の低山登山を励行する中高年者の健康および体力に関する調査研究」  
登山医学, 38 : 43-52, 2018年12月.
3. 森寿仁, 笹子悠歩, 山本正嘉.  
「富士山山頂における夜間睡眠時の動脈血酸素飽和度（第2報）；山頂における高所順応および脱順応過程に着目して」  
登山医学, 38 : 109-118, 2018年12月.
4. 山本正嘉, 笹子悠歩, 梶ちか子.  
「登山中の身のこなしをよくする「登山体操」の紹介」  
登山研修, 34 : 20-23, 2019年3月.
5. 奥田拓海, 笹子悠歩, 山本正嘉.  
「フルコンタクト空手の戦術を簡易的に評価する手法の考案とそれに基づいたフィードバックの成功事例」  
スポーツトレーニング科学, 20 : 17-22, 2019年3月. 以上

氏名：山口 大貴（平成 30 年度入学）

●学会発表

1. 山口大貴，金高宏文，山本正嘉.  
自転車ペダリング運動における運動意識の違いが生理応答に及ぼす影響-優秀な自転車競技選手へのトレーニング介入の効果にもふれて-  
第 4 回日本スポーツパフォーマンス学会大会 2018 年 7 月 25 日，東京ビックサイト（東京）.
2. フダラキス イオアニス，小原侑己，山口大貴，山本正嘉.  
柔道選手を想定したサーキットウエイトトレーニング「クロスフィット」形式における生理応答に関する研究  
NSCA ジャパン S&C フォーラム 2018 2019 年 1 月 26 日，日本科学未来館（東京）.
3. 山口大貴，金高宏文，山本正嘉.  
スポーツ用の自転車におけるペダリング技能を荷重特性から評価する  
第 30 回日本コーチング学会大会 2019 年 3 月 13 日，東海大学（神奈川）.
4. 田川浩子，金高宏文，小森大輔，瓜田吉久，山口大貴，大山卞圭悟，辻川美乃利  
運動意識の発生分析から得られる実践知の活用に関する研究（優秀発表賞）  
第 30 回日本コーチング学会大会 2019 年 3 月 13 日，東海大学（神奈川）.

●学術論文

1. 山口大貴，金高宏文，山本正嘉.  
自転車ペダリング運動における運動意識の違いが動作，回転踏力，生理応答および機械的効率に及ぼす影響：単一事例による検証  
スポーツパフォーマンス研究 11：59-72，2019 年 2 月.
2. 成海大地，山口大貴，山本正嘉  
自転車競技選手が登坂走行を想定した室内ローラー練習を行った際のペダリング動作の特徴  
スポーツトレーニング科学 20：23-30，2019 年 3 月.

以上